

研究主題

通常の学級に在籍する児童・生徒の学習障害、 注意欠陥 / 多動性障害に対応した教育的支援に関する研究

《抄 録》

通常の学級に在籍する児童・生徒の学習障害、注意欠陥 / 多動性障害に対応した教育的支援を充実させることが緊急の課題である。本研究は、調査研究を通してその在り方を明らかにすることを目指した。

今回は、通級指導学級を窓口にして事例を収集し、必要に応じて授業観察や聞き取り調査を行って整理した。収集した 10 事例について分析した結果、次のようなことが分かった。

児童・生徒の人間関係や情緒の安定を図る指導や配慮、授業場面の細かい配慮に基づく学習支援は、通常の学級を含むすべての学校で行われている。

児童・生徒の課題や困難を克服するための指導は、すべての通級指導学級で明確に位置づけられているが、通常の学級で具体的に示されている事例は少ない。

通級指導学級等との連携が、通常の学級における専門性に裏付けられた指導に大きな役割を果たしている。

以上の知見をもとに、通常の学級に在籍する児童・生徒の学習障害、注意欠陥 / 多動性障害に対応した教育的支援の在り方を次のようにまとめた。

児童・生徒の人間関係や情緒の安定を図る指導や配慮、細かい配慮に基づく学習支援を充実させることが、課題や困難を克服するための指導の基盤となる。

確かな指導の基盤のもとに、通級指導学級等と連携しつつ専門性に裏付けされた指導を工夫・実施することが重要である。